

社会福祉法人 健誠会

令和4年度 事業報告

令和5年6月

1. 法人の概要

(1) 名 称 社会福祉法人 健誠会

(2) 事務所の所在地 茨城県つくば市大曾根 3690

(3) 設立認可年月日 平成 13 年 10 月 16 日

(4) 事業の概要

○ 第一種社会福祉事業

- ・ 特別養護老人ホームの経営
- ・ 障害者支援施設の経営

○ 第二種社会福祉事業

- ・ 老人デイサービス事業の経営
- ・ 老人短期入所事業の経営
- ・ 障害福祉サービス事業の経営
- ・ 一般相談支援事業の経営
- ・ 特定相談支援事業の経営
- ・ 障害児相談支援事業の経営

(5) 役員・評議員（令和 5 年 3 月 31 日現在）

【理事長】 市原万里子

【理事】 細田市郎 川村晴一 稲葉一行 市原琢己 上田文代

【監事】 馬場清康 大沼勝美

【評議員】 林浩一郎 鈴木富士雄 松宮洋子 久野まち 柿沼宜夫

藤田萬豊 塚本洋二

(6) 理事会・評議員会の開催状況

理事会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議案名
2022.6.14 (2022.6.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度決算 ・令和3年度事業報告 ・つくば総合福祉センター給食業務委託について ・永福南社会福祉ガーデン給食業務委託について ・役員等賠償責任保険契約について ・シニアガーデン施設長の選任について ・港区立障害者支援ホーム南麻布施設長の選任について ・定時評議員会決議の省略、議案の決定について
2022.9.22 (2022.9.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば総合福祉センター給食業務委託契約について ・永福南社会福祉ガーデン給食業務委託契約について ・役員候補者の提案について ・南麻布シニアガーデンアリス 運営規程の変更について ・評議員会の日時、場所及び議題の決定について
2022.11.29 (2022.11.18)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度下期補正予算 ・経理規程 条文の修正について ・南麻布シニアガーデンアリス・港区立障害者支援ホーム南麻布給食業務委託契約について ・評議員会の日時及び場所、議案の決定について
2023.3.6 (2023.2.17)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第二次補正予算 ・令和5年度予算 ・令和5年度事業計画 ・永福南社会福祉ガーデン施設長の任免について ・南麻布シニアガーデンアリス・港区立障害者支援ホーム南麻布給食業務委託契約入札結果について ・評議員会の日時及び場所、議案の決定について

評議員会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2022.6.25 (2022.6.21)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度決算
2022.10.3 (2022.9.22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員を選任について
2022.12.19 (2022.12.7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度下期補正予算
2023.3.27 (2023.3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第二次補正予算 ・ 令和5年度予算 ・ 令和5年度事業計画

(7) 施設・職員数・定員

令和5年3月1日現在

施設名	施設長・管理者	職員数		利用者定員
シニアガーデン	高野聡美	常勤	60名	50名(入所)
		非常勤	9名	20名(短期入所)
				35名(通所)
				29名(別館入所)
シニアガーデンアネックス	岡田満博	常勤	41名	29名(入所)
		非常勤	7名	20名(短期入所)
				35名(通所)
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	浅井太陽	常勤	6名	
		非常勤	0名	
つくば総合福祉センター	福島弘晶	常勤	31名	40名(入所生活介護)
		非常勤	10名	20名(通所生活介護)
				4名(短期入所)
一般・特定障害者(児)相談支援 事業所サポートプラザつくば	横尾 翼	常勤	6名	
		非常勤	0名	
知的障害者グループホーム 六本木ヒルサイドホーム	藤田陽	常勤	2名	10名(共同生活援助)
		非常勤	7名	2名(短期入所)
特別養護老人ホーム 永福南社会福祉ガーデン	大島茂則	常勤	29名	70名(入所)
		非常勤	5名	10名(短期入所)
		派遣	13名	
障害者支援施設 永福南社会福祉ガーデン	大島茂則	常勤	6名	10名(入所支援)
		非常勤	7名	6名(生活介護)
		派遣	4名	1名(短期入所)
		出向	2名	
特別養護老人ホーム 南麻布シニアガーデンアリス	上田文代	常勤	41名	100名(入所)
		非常勤	5名	10名(短期入所)
		派遣	10名	
港区立障害者支援ホーム南麻布	中嶋京子	常勤	33名	40名(入所支援)
		非常勤	4名	40名(生活介護)
		派遣	7名	4名(短期入所)
港区立障害者支援ホーム南麻布 障害者(児)相談支援事業所	高須賀潮理	常勤	2名	
		非常勤	0名	

(8) 地域における公益的な取組

「地域の方と交流」事業

大曾根上構造改善センターを主な会場として、地域の高齢者を対象に、無料で体操・介護相談・折り紙・クイズ等の活動を実施。

実施日	参加人数	主な活動内容
令和4年 4月24日	14名	介護相談、全身体操（ストレッチ体操） ゲーム（桜満開）
5月22日	15名	介護相談、アロママッサージ（手） 指体操、ゲーム（ヨガブロックつみ）
6月26日	13名	介護相談、タオル体操、指体操、脳トレ
7月3日	15名	介護相談、50音カードゲーム
9月25日	18名	介護相談、ラジオ体操（ブロックつみ）、脳トレ
10月23日	18名	介護相談、運動会（ラジオ体操、紅白玉上げ、大玉送り、ブロックつみ）
11月13日	15名	介護相談、全身体操（スーダラ節体操）
12月18日	16名	介護相談、全身体操、お正月の想いで（懇談）
令和5年 1月22日	14名	介護相談、個別機能訓練（口腔体操、冷え予防改善体操）、早口言葉、間違い探し
2月26日	18名	介護相談、ベビーカステラ作り
3月26日	15名	介護相談、春が来た体操（脳トレ）、ゲーム

※ 社会福祉法第24条2項（社会福祉法人は、社会福祉事業及び第二十六条第一項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない。）

2. 施設・事業所別事業報告

令和4年度事業報告（施設名 シニアガーデン・シニアガーデン別館）

事業所名	定員	稼働率
特別養護老人ホーム シニアガーデン	50名	94%
短期入所生活介護事業所 シニアガーデン	20名	89%
通所介護事業所 シニアガーデン	35名	57%
地域密着型小規模特別養護老人ホーム シニアガーデン別館	29名	92%

事業の概要

（シニアガーデン入所）

上半期同様、月平均3名程度の入院が続いています。11月末～12月半ばにかけては、利用者19名・職員4名のコロナ陽性、12月末～1月半ばにかけて利用者1名の陽性が確認されました。また、現利用者のほとんどが90代後半で看取りケアにて退所される方の数も増えてきています。入所・退所の動向も多いですが、待機者にお声かけしてもすぐの利用を希望する方が少ない状況です。待機者リストを整理し、空きのないベットコントロールを実施していきます。

（短期入所生活事業所）

12月～1月にかけて入所で発生したコロナクラスターの影響で単発の受け入れを中止したこともあり、稼働は低下しました。入所待機で利用しているロングショートは16～18床を確保していましたが入所同様、利用当初から看取りケアでの受け入れが増えてきていて入退所が多い状況です。現在はコロナも落ち着き、単発ショートに関してはリピーターの方の利用で予約が埋まっています。ショートステイの看取りケアに関しては、つくば市内でも受け入れている施設がほとんどないので引き続き積極的な受け入れをしていきます。

（通所介護事業所）

感染予防のため利用を控える利用者は減ってきましたが、体調不良や病状悪化で利用が難しくなっている方が増えています。各居宅から新規の相談が少ない状況ですが、引き続き営業の実施・利用者の意向に沿ったレクリエーションを実施し、（コロナで実施出来ていなかったが、要望の多い買い物会・外食会・外出会など実施）現利用者の利用維持に努めていきます。

（地域密着型小規模特別養護老人ホーム）

月平均1～2名の入院が続いています。また看取りケアで退所される方も増え、稼働は低下しています。本館同様、待機者にお声かけしてもすぐの利用希望の方が少なく、空床が続いています。待機者リストの整理と営業の見直しをし待機者確保に努めていきます。

令和4年度事業報告（施設名 つくば総合福祉センター）

事業所名	定員	稼働率
つくば総合福祉センター 入所	40名	97%
つくば総合福祉センター 通所	20名	77%
つくば総合福祉センター 短期入所	4名	66%
つくば総合福祉センター 日中一時預かり	5名	70%

事業の概要

【入所】

8月にコロナ感染症によるクラスターが発生し、利用者10名、職員7名の罹患が確認されました。それにより、職員の体制が確保できないことから、通所、短期入所等の事業を、休止せざるを得ない状況となりました。今年度からは、コロナ感染症に対する対応が緩和されますが、現状では入所でのコロナ感染症発生は、運営上、大きなダメージとなります。『持ち込まない対応』『発生時への対応』を再確認し、新たな生活様式に準じた対応の検討・実施をしていきます。

【通所】

施設内でのコロナ感染症発生（8月…入所、12月…通所）や、コロナワクチン接種等で利用を控える方が多く、実績の低下が見られました。現在はコロナの状況が落ち着いていることもあり、徐々に利用は戻ってきましたが、コロナの関係で、他施設の利用を開始した方もいるため、新規の受け入れが必要となっています。受け入れ可能な曜日等、詳細な情報を近隣の相談支援事業所と共有し、計画的な受け入れができるよう調整していきます。

【短期入所】

通所と同様の理由（コロナ感染症による利用控え・受け入れ制限等）により、実績は低下しましたが、定期利用者を増加させたことで、安定化の礎を築くことができました。今後は、更なる定期利用者を増やすと共に、長期間の利用が見込まれる、入所を見据えた利用者を確保できるよう、関係機関（病院、相談支援事業所）と情報共有を行っていきます。

【日中一時預かり】

つくば市内のコロナ感染症罹患者が増加した月は、実績の低下が顕著にみられました。契約者数を増やし、実績を安定化させる必要があるため、市内の関係事業所や特別支援学校を中心に営業活動を行っていきます。その際、その場へ出向き、より具体的な内容を説明することで、安心してサービスが利用できる体制を構築していきます。

令和4年度事業報告（施設名 サポートプラザつくば）

事業所名	実績	稼働率
特定相談支援事業・障害児支援事業(計画)	216件	113%
特定相談支援事業・障害児支援事業(モニタリング)	782件	101%
一般相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	1件	-
つくば市障害支援区分認定調査(つくば市委託)	32件	-

事業の概要

【特定相談支援事業・障害児支援事業】

障害福祉サービスを利用希望する方が事業の対象となります。相談内容も多岐に渡るため、幅広い相談対応スキルや知識が求められています。毎週行なう事業所内ミーティングや、事業所内研修、虐待防止委員会などを通じて、支援検討を行ない、相談員全員で理解を深め、障害特性に応じた質の高い支援が提供できるよう取り組みを行なっております。

つくば市においては、若い世代の人口流入が増加しており、児童福祉サービス利用数も急激に増加しております。児童相談稼働率を上げることをつくば市でも重要課題として、取り組みを行なっておりますが、対応が追い付いていない現状があります。課題解消を図るべく、児童の新規相談についても、随時、対応数を上げられるよう調整を図っております。

対応数が増えるごとに書類作成などの事務負担が増えています。相談対応に力を注げられるよう、事務負担軽減や、その他業務のスリム化を図ります。

【一般相談支援】

一人暮らしを行なう(または退院後に福祉サービス利用予定の)障害者が地域で生活を構築するためのサービスです。サービス要件も厳しく、今年度の対応は1件となっておりますが、精神科病院の入院を繰り返す方や日常的に不安を抱えながら生活されている精神障害者が多くいるため、令和5年度はサービスに繋げていき、障害を抱えた利用者が地域で安心した生活を送れるよう支援してまいります。

【つくば市委託業務（基幹相談支援センター・障害支援区分認定調査）】

サポートプラザはつくば市基幹相談支援センターの役割を担っており、多くの困難ケースにも対応を行なっております。突発的な対応も多く、苦慮する場面もありますが、行政をはじめ、多くの関係機関と密に連携を図るなどし、様々な事例の対応を行なっています。

障害支援区分認定調査については、今年度は新たに2名の相談員が調査員として追加され、4名体制で対応に当たっております。

その他、つくば市において進められている地域生活支援拠点の整備や、つくば市の中核的な相談業務についても役割は年々大きくなってまいります。地域の動向に応じ、多角的な視点で幅広く対応ができる相談支援事業所を目指します。

令和4年度事業報告 (施設名 シニアガーデンアネックス)

事業所名	定員	稼働率
地域密着型特別養護老人ホーム	29名	98,9%
短期入所生活介護	20名	74,2%
通所介護	35名	78,1%

事業の概要

<地域密着型特別養護老人ホーム>

ご入居者様の受け入れ時の情報共有について、病院・ご家族様・担当ケアマネと連絡相談体制を整え実践したことで、空床期間を最小限にし、高稼働率の維持が出来ました。また嘱託医と密に連携を取り、体調の変化に素早く対応できるように取り組んでいます。入所待機者が年々減ってきている事から、病院や居宅介護支援事業所へのアプローチの向上、地域活動やホームページからのアピール等にも力を入れ、安定稼働が出来るように努めて参ります。

<短期入所生活介護>

ロングショートご利用者が入所へ移動となるケースが非常に多く、また、コロナ感染症対策もあり、予定をしていた稼働数確保が出来ませんでした。今後は、ロングショートご利用者確保に重点を置きながら、各方面と連携を図り緊急の受け入れについても、感染対策を十分に行い地域方々のニーズに応じて参ります。

<通所介護>

新規のご利用者様確保につきましては、昨年度以上の数値となりましたが、コロナ禍での自粛・休止が大きく響き、予定した稼働数に届きませんでした。今後は、予定稼働数を確保するために、送迎エリア拡大と居宅介護支援事業所への多彩なアプローチを行い、新規ご利用者様確保を進め稼働確保に努めて参ります。また、地域交流の場と機会を増やし、広報誌やホームページブログ等を活用しながら情報発信を行い、地域の皆様に貢献出来るようにして参ります。

令和4年度事業報告（施設名 居宅介護支援事業所シニアガーデンアネックス）

事業所名	定員	稼働率
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	ケアマネージャー 6名	100%

事業の概要

ケアマネージャー6名体制（内3名は主任ケアマネージャー）で活動し、介護支援専門員更新研修Ⅱを2名が受講修了しております。

令和4年度もコロナの影響により、連携において病院や施設等での対面による面会や会議が難しい状況もあったため、電話連絡等で積極的に情報共有を図り、必要なサービスが切れ目なく提供されるように支援し、ご利用者様・ご家族様が安心して在宅生活を継続できるよう努めました。また、外部研修についてはオンライン形式から参集形式へ徐々に移行し始めた1年となったため、他事業所との意見交換の場として積極的に参加し、相談や連携が取りやすい関係性を築けるよう努めました。

コロナ対策では、両者のマスク着用などの基本的な感染対策に努め、コロナ発生時には関係事業所との速やかな情報共有を行い、感染拡大予防を関係者と協力し合いながら行いました。

稼働については、適正な運営基準の遵守と特定事業所加算Ⅱの算定要件を満たし、1年を通して稼働を安定させることができました。

稼働が安定している分、全体的に業務量が多い状況が続いているため、各ケアマネージャーの業務量・負担が偏らないように調整しながら、今後もケアマネージャーとしての資質向上、多職種連携・協働に努め、質の高いケアマネジメントを提供し、ご利用者様や近隣地域、いはらグループへ貢献していきたいと思っております。

令和4年度事業報告（施設名 六本木ヒルサイドホーム）

事業所名	定員	稼働率
共同生活援助(入居)	10	100%
短期入所(ショートステイ)	2	13.5%

事業の概要

- ・共同生活援助(入居)は現在満床で推移しております。
令和4年度は、新型コロナウイルスの影響もなく入居に関しては落ち着いております。
感染症対策を徹底しつつ、下半期より余暇活動を再開し集団行動などの社会活動訓練に取り組むことができました。
- ・短期入所(ショートステイ)は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、利用率が低下していましたが徐々に上昇し感染症流行前程度の水準に戻りつつあります。
利用率増加の主な要因として、令和4年度に入りロングショートの男性利用者、女性のリピーターを複数人獲得できたことが挙げられます。
今後は既存利用者の利用頻度を維持しつつ、新たにロングショートの女性利用者を獲得できるよう関係各所へ働きかけていきます。
- ・障害者福祉事業所の運営に関しては、預かり金等の取扱に重きを置いていきます。
主な取り組みとして、月に一度GH内の職員2名での貴重品・金銭の確認を行い、外部の目を入れる為二か月に一度経理職員に協力を仰ぎ金銭の確認を行っています。
今後はより透明性の高い健全な運営を目指し、利用者様・ご家族様との信頼関係を構築していきます。

令和4年度事業報告（施設名 永福南社会福祉ガーデン）

事業所名	定員	稼働率
永福南社会福祉ガーデン（特養）	70	90%
永福南社会福祉ガーデン（入所支援）	10	100%
永福南社会福祉ガーデン（生活介護）	6	60%

事業の概要

（特別養護老人ホーム）

今年度の稼働につきましては、利用者待機者が出来ずに稼働低下に繋がってしまいました。入所者の入院が多くなってしまふことがあり、それも低下の原因となってしまいました。待機者につきましては、今年に入り見学者も多くなり、申込者も増えておりますので、入所をすすめてまいります。

また、職員の退職があり、募集はしているのですが応募が少なく、派遣職員を利用したの運用が続いてしまいました。

次年度につきましては、現在定員70名のところ60名に変更することで、派遣職員を少なくすることができ、職員募集についても強化し、最終的に派遣職員をなくすように行なってまいります。

コロナ感染症について施設内で発生はしましたが、大きなクラスターにはならず収束できました。今後も感染対策を行ってまいります。

（障害者支援施設 入所支援）

退所者はなく、満床で推移することができました。

今年度コロナ感染症ですが、施設内でクラスターが発生し、入所者全員が陽性となってしまいました。グループ内の協力もあり、収束することができました。入所者1名がコロナ感染症により、入院しましたが、改善し施設に戻ってきております。その後感染症は発生しておりませんが、今後も感染対策を実施してまいります。

（障害者支援施設 生活介護）

施設のクラスター時や医療的ケアのご利用者様が生活介護を控えるなどして、実績が低下してしまった月がありました。コロナ感染症を持ち込まない対策を今後も続けていくことで稼働率を安定させていきます。

令和4年度事業報告（施設名 南麻布シニアガーデンアリス）

事業所名	定員	稼働率
南麻布シニアガーデンアリス	100名	90.7%

事業の概要

令和4年度の稼働率は特養・地域密着特養・空床型短期入所の合計で81.4%からスタートしました。5月には新たに定員12名の入居ユニットをオープンすることができ、12月は93.2%まで向上致しました。

入居については、港区で受け付けられた申込者に名簿順にお声がけを進め、年間で30名をお迎えいたしました。それに対し年間27名の退居がありました。退居の理由としては看取りをはじめとしたご逝去や体調の変化時にご家族が積極的治療をご希望されたことによる入院から長期滞在型の病院等への転居が目立ち、入院は月平均7.7名でした。その他、介護度の改善による自宅への退居も4件ありました。

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策に注力する1年にもなりました。東京都内の感染状況に合わせ、通年で全職員が毎週PCR検査を実施する事に加え、毎日N95マスクの着用しケアにあたる等感染対策を徹底して参りましたが、1月に1つのユニットにおいてクラスターが発生したことで感染者が増加し、7月から1月までの合計で職員24名と入居者10名が罹患いたしました。職員の体制確保とともに入院先が見つからない状況での対応が続きましたが、早い時期から嘱託医が治療薬を導入されていたことなどにより、入居者様は感染時の重症化を避けることができました。

また、2020年6月に施行された「改正労働施策総合推進法」をもとに完成した「カスタマーハラスメントに対する方針」を入居者ご家族等に説明・提示のうえサインを頂くほか、港区役所や麻布警察署を訪問し対応を相談のうえ110番通報や防犯カメラを増設するなど、近年、増加している介護事業者へのカスタマーハラスメントに対する取り組みを強化いたしました。職員の離職にも影響が及んでおりましたが、徐々に状況が改善しております。

令和5年度におきましては、現在稼働中のユニットの満床を目指すほか、短期入所ユニットのオープンを計画しております。現在、空床を短期入所で利用していただいている利用者様の数を増やし、入居ユニット満床後は新たな短期入所ユニットをご利用いただく予定です。また、令和4年度は職員の離職率を前年度より10%削減できましたので、継続的に採用活動とともに職員の定着を図り、研修の充実をはじめ施設行事や防災訓練、地域との交流の機会の確保に努めます。

令和4年度事業報告（施設名 港区立障害者支援ホーム南麻布）

事業所名	定員	稼働率
施設入所支援	40名	85%
生活介護	40名	85%
短期入所	4名	37.5%

事業の概要

【入所】

港区障害者福祉課と連携し、8月に新たな目標(施設のロードマップ5年計画)を再設定いたしました。目標は全職員と共有し、3ヵ月毎に進捗状況の確認をし、家族連絡会にて報告をしております。ご家族からは理解と協力を得られることも増え提案等もあり、今後の施設運営に生かしていきたいと考えます。人員体制については、女性支援員の採用が難しく苦慮する結果となりました。人員体制が整わなければ新たな入所には進めないという区の方針で、稼働を上げることはできませんでした。今後は1人ずつでも入所者を増やせるよう、人員の確保に努め、区と協議して稼働を上げたいと考えます。また、医療的ケアの必要なケースの入所のニーズも多く、積極的に受け入れられる体制を整えて行きたいと考えます。

【生活介護】

新たな入所がないため、稼働率は横這いです。作業療法士が1名増員となったことで、ご入所者に対するリハビリテーションは、これまで以上に充実したことから区やご家族から高い評価を得ることができました。日中活動については、QOLの観点から更なる充実を求める声が聞かれ、これまでコロナ禍で出来なかったことも、今後は積極的に取り入れていくことが大きな課題と考えます。同時に職員の意識も変えていく必要を感じており、ご利用者の満足度の向上を目指し、積極的に他施設の見学等を行ない、様々な活動を取り入れていきます。

【短期入所】

新規利用は増えつつあり、区内の虐待事案等の緊急の受入れも積極的に行なっています。申し込みのあったケースについては、ほぼ受け入れられる体制も整いつつあります。入所の稼働に変化のない現在、短期入所の稼働の向上は、運営上重要になりますので、スムーズな受入れ体制と繰り返し利用していただけるよう利用者・家族との信頼関係の構築にも努めていきます。

令和4年度事業報告（施設名 港区立障害者支援ホーム南麻布/相談支援）

事業所名	目標 / 実績	稼働率
計画 (特定相談支援・障害児相談支援)	100 / 85	85%
モニタリング (特定相談支援・障害児相談支援)	240 / 167	69%

事業の概要

【運営概要】

令和2年3月に開所し、約3年が経過いたしました。令和4年度末時点で、身体・精神・知的・難病の障害児者58名を対象に、障害特性や課題に応じた障害福祉サービスや地域資源を取入れた計画作成や相談対応等を実施しております。

他相談事業所移行からの困難ケースも多く、毎月様々な課題が発生しその都度必要支援へと繋げており、今後も継続する見込みです。

【課題】

令和4年度の年間計画では、相談支援専門員を増員し十分な支援体制を整えて新規受入れ再開をし利用者増量からの請求数増量と目標だてておりました。

現在まで相談支援専門員増員とならず、目標としている毎月の稼働率を下回っておりますが、通常支援以外でも困難事発生時には対応とし臨時請求へと繋げることに心掛け、昨年度よりも計画の稼働率は上がる事ができました。また、行政や関係機関より新規利用者の受入れ相談は継続しており、次年度に向け、事業所体制・支援体制整備等の課題に対し取り組んでまいります。

【課題解決のための対策】

行政や関係機関より新規利用者の受入れ相談は継続しており、現状体勢で無理なく支援提供できる場合に限り新規受け入れを開始しております。利用者・関係機関との関係を築く中で、情報共有を多くもて利用者の困り事把握ができ対応時期の予測も立ちます。改善対応を行う事で、定期請求以外での臨時・加算請求は毎月発生でき、今後も利用者・関係機関との丁寧な関わりを密にし増収へと繋げて参ります。相談支援専門員増員後には新規利用者受入れを予定しております。相談支援専門員が利用者一人一人と丁寧な関わりを持つ事で、対応＝臨時増収となり実績達成は想定されます。よりきめ細やかな支援が出来る職員体制整備となるよう、相談支援専門員それぞれの特性を考慮しての担当利用者(人数・障害種別)設定に留意をし、全体では障害特性や年齢等に偏りのない支援が提供できるよう努めます。